

1月定例会集(1/14)レポート



いつもの通り、深坂自然の森の「森の家」に集合。

この日は43名が参加した。A班からL班までの12班に分かれ、天狗巣病対策と肥料やりをしました。



肥料の分配

買い置きの肥料が少なかったのか、作業の後半に入ると、どこからも「もう肥料はないのか？」という声が上がった。次回はしっかり準備して欲しいですね。肥料は、根元から30~40cm離して少し穴を掘ってやる。表面にまくと効くまでに時間がかかる。去年の肥料が地表にまだ残っているという声があったが、それはもう効果が無い。化学肥料は、肥料成分を粒に吸収させてある。粒が残っても成分は抜けているのだ。

L班

L班は石垣の上だ。普段は容易に近づけないので一人で手入れをするのは難しい。



今日は仲間も居るし、梯子もある。

天狗巣病の枝

天狗巣病にかかった枝は、各班から軽トラ1台分としても12

台分は出たぞ。出来るだけ早く焼却処分する。市との話し合いで、一ヶ所に集めておけば市が収集してくれる。

3月4日桜(幼木)仮植と植替え



今年の冬はほんとに暖い。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉が死語になるのではないかと心配する。この日は初夏を思わせるほどの温かさ。そんな中、午前

9時に集合した有志26名は、昨年11月に開いておいた友田川縁の幼木仮植場に50本の桜の幼木を仮植した。これらの幼木は、台風で倒れたり、場所が悪くて育たなかったりしたオーナー桜の代替として補充していくものである。10時半にはここでの作業を終えた。



休む間もなく深坂の森へ移動して、お昼まで25本の幼木を植樹した。オーナー桜の代替木の植樹である。自然発芽の杉の若木を市の許可を得て切り倒したが、杉花粉が飛散して、花粉症の若者が目を真赤にし文字通り飛散な目に遭った。

投稿

山肌にポツポツと咲く桜を眺めてい

ると、山桜の中にたまにソメイヨシノが咲いているのが判る事がある。縁がくっきりと際立ち、ピンクのかたまりが他よりも白っぽいのがソメイヨシノだ。その周辺には、屋敷が見えたり、道らしいものが見えたり、或は、そこに行ってみれば屋敷跡があるかもしれない。ソメイヨシノは人が近くで見たい為に植えており、明るく開けた場所に、良い姿勢で育つ。

福江で見る鋤先山、裏山、吉見の山には、山桜が沢山咲き、山肌がピンクに染まる。

桜はわたしにとって特別な思い出がある。昭和28年4月中学校卒業直後、帰国船興安丸(注)が舞鶴に着いたとき、あれが桜の花だと教えられ、下関に落ち着いたときは、桜の時期は過ぎていて残念だった。その後毎年、貧乏でも花見だけは連れて行ってくれた。学生のときは彼女と。廣島の社宅では家のそばの老木を、庭に出した敷台に仲間も集まって花見三昧、毎年。そして近頃、ポツポツと山肌にぼうっと霞んだように咲く山桜を見ていて、あの日、あの船のデッキで、朝からあきずに眺めていた、日本の海岸や山麓の風景の事を思い出す。

あの白いポツポツは山桜だったのかな、隣にいたおじさん何も云わずに見ていたけど。

もうすぐ、またその季節がやってくる。

(注)終戦後、中国当局から技術者留用で残留した人達の集団帰国事業の第三次引揚第四船興安丸は昭和28(1953)5月15日舞鶴港に入港している。

平野 正(維持管理部会)

投稿募集

桜や、深坂の森、さくら友の会に関する皆様のご意見、想いなどをお寄せ下さい。(400~600字)

ホームページの写真募集

会員の桜、ネームプレートの写真やコメントを募集しています。それらは順次、さくら友の会のホームページに載せていきます。写真はデジカメで撮り、メール添付で応募下さい。

予 定 定例会は常に草取り作業などを目標に集合します。雨天のときも集合を原則とし、天気次第で急遽レクリエーションに変更することもあります。
次会定例会 5月13日(日)予定